

聖書:エペソ人への手紙4章1~10節

説教:御霊による一致

はじめに

パウロがエペソで伝道した時の様子のことが、使徒の働きに書かれています。パウロがエペソに入った最初の頃は、福音を語ってもなかなか信じてくれません。また、パウロが身につけていた手ぬぐいや前掛けに触れたら病気が治り、悪霊が出ていったということが評判になるのですが、それでも信じる人はほとんど起こされません。そんなとき一つの事件が起きます。パウロのうわさを聞いたあるユダヤ人の祈祷師が、パウロの真似をして悪霊にこう言った。「パウロの宣べ伝えているイエスによって、おまえたちに命じる。」そうしたら、悪霊は出て行くどころか反対に大暴れして祈祷師のほうがいちからがら逃げ出した。これをきっかけにエペソに住むギリシャ人とユダヤ人が信じるようになり、それでエペソの町に教会が生まれたというのです。それは感謝な事ではありましたが、いっぽうギリシャ人とユダヤ人というまったく背景が異なる文化で育った者どうしが同じ会堂に集まって礼拝をするのですから、どうしても緊張が生じてしまう。幸いにしてエペソ教会はまだよかったようですが、おなじ時期にパウロが開拓したコリント教会は大きな問題となりました。今日の箇所でもパウロが、「一致を熱心に保ちなさい」と書いているのはそのような事情があったためでしょう。

この教会も開拓当初、一致することが難しく苦労があったところ思い起こします。いったいどのようにしたら一致できるのか、そもそも一致するとはどんなことか。ともに考えてまいります。

1 一致

1) 御霊による

2, 3節を読みます。「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい。」ここでまず目を留めたいのは、「御霊による一致」ということばです。でも一致すると言ってもいろいろあります。たとえばこんなことがある。「今日のお昼はご飯か、麺類か。多数決で決めましょう。」「ご飯」の人が多ければ「ご飯」に決まり、「麺類」に手を挙げた人たちも、多数意見に従って一致する。これが世の人たちが言っている一致です。教会の信徒総会でもそのようにして

決めます。けれどもそれがすべてではない。世のことについては多数決かもしれないけれど、霊的なことについては御霊によって一致するのだと言っている。それがどういうことかはまた後で見ることにして、その前に一致するための前提があるので、それ先にも確認します。

2) ひとつ

今、ご飯にするか麺類にするかという例を挙げましたが、そこに集まっている人たちに何か共通の土台があるのでしょうか。あるとすればお腹が空いているところくらいで、あとはめいめい自分の好みを言っているだけです。共通の土台がないのですから、一致はむずかしい。では聖書による一致はどうか。共通の土台がちゃんとある。そこが大きな違いです。それは何か。すでにお気づきかもしれませんが、ここに何度も繰り返されていることばがあります。それは「一つ」「ひとり」ということばです。「その召しの望みが一つであったのと同じように」、「からだは一つ」「御霊は一つ」「主は一人」「信仰は一つ」「バプテスマは一つ」「すべての者の父である神はただ一人です。」これが七回で、全部神と関係があります。八回目の7節にある「私たちひとり一人」はというところは、「ひとつだけ」という意味ではありませんから、実質七回「ひとつ」ということばが繰り返される。

もしもひとり一人の立っている土台がみな違っていたら、一致したくても難しいでしょう。しかし私たちが立っている土台はみな同じです。信じる神はただお一人、イエス・キリストは一人、御霊も一つ。私たちがいただいているものは全部ひとつで、そこにみな立っている。みな同じ所に立っている。なので一致できる。これが大切なポイントです。

3) 自分を押し殺して?

でも「一致する」と聞いて皆さん何を思い出しますか。先日、私が住んでいる地区の町内会に出たときのことです。町内の交差点のことで、役員と十人との間で結構激しいやりとりをしていました。終わってから、ある古参の方がこう言ったのです。「自由に言いたいことを言えるようになってよかった。」それまで町内会がどんな雰囲気だったのかということ。自由に言いたいことを言え

ず、声の大きな人が会議を支配する。反対に声の小さな人は我慢する。そうやって形の上で一致しているように見える。そういうことがたくさんあります。結局教会も、自分の思いや考えを押し殺して我慢して一致しなさいということなのではないでしょうか。

2 賜物

1) 量りにしたがって

そういう疑問が出て来ることを予想したのでしょう。パウロは先手を打っています。7節です。「しかし、私たちは一人ひとり、キリストの賜物の量りにしたがって恵みを与えられました。」

賜物の量りとあります。料理に使う計量カップのように、あなたには醤油という賜物が何グラム、あなたには砂糖という賜物が何グラム。それぞれ違う賜物をいただいている。そんなふうに読めます。そうするとこんな質問が出る。「あの人にはたくさん、私の賜物が与えられているのに、どうして私にはこんなに少ないのですか。神は不公平です。」確かに聖書には、ひとり一人違うと書いています。今はなんでも公平であることが大切だと言われる時代ですから、こんなことを言われると不公平だと言いたくなります。

2) ひとり一人異なる

でも、聖書の言う賜物とはいったい何でしょうか。おそらく私たちはなにか誤解しているのだらうと思います。ここを読んで、がっかりする話ではない。こういうときよくあるのがお花のたとえです。春になって桜が咲くとききれいだなどだれもが思います。ではきれいだからと言って、世の中に桜だけしかないと言ったらどうなるか。楽しいですか。あまり楽しいとは思わない。今はライラックが盛んに咲いていますが、いろいろな植物があるからこの世界は楽しくて豊かだと思えます。そもそも神がこの世界を造られたとき、こうされていた。創世記1章11節「神は仰せられた。『地は植物を、種のできる草や、縦の入った実を結ぶ果樹を、種類ごとに地の上に芽生えさせよ。』すると、そのようになった。」

いろいろな種類の植物が育つようにしていただき、それを神はご覧になって「非常に良かった」と言われる。人間ならばなおさらではないですか。Aさんがすばらしいからと言って、世の中がAさんばかりだったら、こんなつまらない世界はない。いろいろな個性の人がいるから世の中は豊かで楽しい。神が与えて下さる賜物というのは、そもそもほかの人と比べるものではないのです。

3 教会

1) 異なる賜物をもった人たち

とは言っても、賜物が違うと言うことは、いろいろな個性の人がいるということですから、気の合う人もいればそうでない人もいるということにもなります。教会なら同じ信仰をもっているのだから皆と仲良くなれると思っていたら、そうではないということも残念ながら起きます。まさにコリント教会がそうだったわけで、彼らはお互いに派閥を作ってけんかを始めてしまいました。

いったいどうしたら一致できるのか。いやそもそも、私たちは一致などできないのだと諦めるしかないのでしょうか。そんなはずはありません。パウロが言うように、私たちは同じ一人の神を信じ、主と告白しているのですから、どこかに望みがあるはず。その鍵となるのが「御霊」です。もしも一致できていないのなら、御霊による一致を熱心に求めなさい、ということです。そこに解決の糸口があると言っています。

2) 御霊の助け

そこで、「御霊による一致」とはなにか、ということになる。2節に謙遜とあるので、お互いに謙遜になり、相手に対して寛容な態度を示し、なにごとも耐え忍んで、がんばって一致していきましよう、ということか。でもこれも結局、自分が我慢をして押し殺してということと変わらない。それでは世の中にあるような見せかけの一致ですから、結局問題の解決にはなりません。

ではどうするか。2, 3節にある「謙遜、柔和、寛容、愛、耐え忍ぶ、平和」、これはパウロがガラテヤ書で述べている「御霊の実」のリストとほとんど重なる。つまり聖書の一致は、御霊の助けがなければできないわざだと言っている。

3) いのちを捨てて賜物を与えてくださる方

では御霊はいったいどのような働いて私たちを一致に導くのか。これが最後の問いかけになります。

「聖霊が働くように祈りましょう」、なのか。大切なことを忘れてはなりません。私たちに賜物を与えてくださった方はだれですか。8節にあります。「彼はいと高き所に上ったとき、捕虜を連れて行き、人々に贈り物を与えられた。」これは詩篇68篇18節から引用で、地上に降られて、上られた方とは、イエス・キリストです。この方が贈り物、すなわち賜物を恵みとして与えてくださった。どのようにしてでしょうか。地上に降って人となら

れ、十字架で死んでくださり、三日目によみがえられて天に上げられました。「いと高き所に上ったとき、捕虜を連れて行った」とあります。捕虜とは私たちの罪と言ってもよいでしょう。罪が赦されたと同時に、この方から賜物をいただいている。そのためにこの方はいのちを捨ててくださった。私が本来の私として生きられるように、十分な賜物を与えてくださっている。誰かと比べることではない。なぜならこれ以上、高価なものがないからです。

最初そこに気がつきません。自分のことしか見えていないので、不満だらけ。もっている人を見て妬ましく思ってしまう。でも、やがて自分の罪が知らされる時があります。そのとき初めて気がつく。こんな汚れた私のために主がいのちをお捨てになり、私に救いという贈り物を贈ってくださいました。それがわかったとき、だれから言われなくても感謝したくなる。そんなふうにはひとり一人が導かれていく。そうしたらどうなると思いますか。不思議なことが起きる。つい昨日までいがみ合っていた人たちが、いつの間にか一致している。これが御霊の働きだったのです。私はこの教会でそのことを見てきたので、私は確信をもって皆さんに語る事ができる。聖書に書かれているとおりです。

「御霊による一致」とはなにかと問いかけてきましたが、結局、いつも私たちがしていることでした。何か特別なことをするのではありません。聖書に書かれていることをするだけ。それで十分なのです。私たちを一つとしてくださる主とともに歩んでまいります。